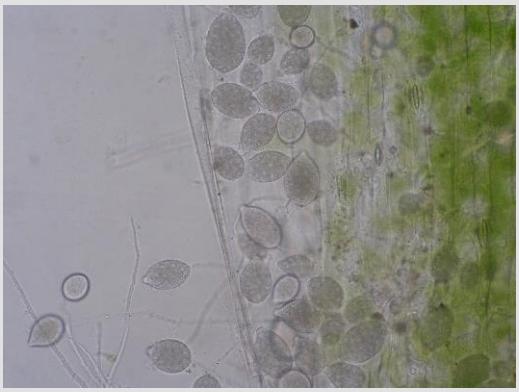
白色疫病

病原菌	*Phytophthora porri*
病徴	養成株の下位葉および上位葉に発生する。下位葉では接地した部位から淡緑色に腐敗し，やがて下位葉全体が発病する。上位葉では，葉身の先端部付近に長さ５～１０ｃｍ程度の白色の病斑を形成する。先端部を２～３ｃｍほど残して発病することが多い。下位葉のように葉身部全体が発病することはない。

多発した圃場

罹病葉の葉先

診断方法	罹病葉を顕微鏡下で観察すると無隔壁の菌糸が充満しており，これが診断の決め手となる。さらに罹病葉を長さ1㎝程度に切断し，蒸留水に浸漬し，４～１５℃で２～３日放置するとレモン形～卵形，乳頭突起を有する遊走子のう(大きさ２４．７～５７．７×１６．６～３９．２μm)を形成する。遊走子のうの形成が確認できれば，より正確に診断できるが，遊走子のうの形成は不安定であり，形成しないことも多い。



病原菌の遊走子のう

無核壁の菌糸